



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 幸せな人だけが知っているシンプルな生き方
鈴木 真奈美 著 PHP研究所
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2018年2月1日 Vol. 184
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊 敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

0.7%

2016年末に発表された最新のデータによると、世界で超富裕層とよばれている人々は、およそ世界の成人人口の0.7%。100万ドル以上の金融資産を持っている人たちです。この0.7%未満の人たちが世界の富の46%を占めているのです。また、世界の超大富豪上位8人の資産が、下位半分の36億人の富に相当するという驚くべき結果も公表されました。

このような極端な富の偏在が、世界の紛争と対立の根本原因であるといっても過言ではないように感じます。今後ますます富の格差は広がっていくと思われます。富める者と貧しい者との対立が先鋭化していくことが避けられず、富の格差がまた別の新たな対立を生み、さらに新たな紛争を引き起こしていくと想定されます。

過去の歴史を紐解けば、貧困で明日食べるものがない人たちは隣の国を侵略してきました。しかし、現在は平和思想の浸透や情報インフラなどにより戦争を起こしにくい状況にあり、食べるものがないという困窮を余儀なくされます。その状態の放置からテロへと結びついていきます。ヨーロッパの強固な警備体制をもつロンドン、パリ、ハンブルグ、バルセロナなどの主要都市でのテロが当たり前のようになり、世界に恐怖を拡散させています。

世界には想像を絶する貧困が広がっています。ひと月に10ドル、あるいは100ドル以内で暮らしている国がたくさんあります。身近なところでは、軍事大国ロシアの平均月収は300ドルです。月に3万円から4万円で生活しなければなりません。このような状況は改善どころか悪化し拡大しつつあります。

そんな中で世界の金融市場は、アメリカ、日本、そしてEUの中央銀行が足並みを揃えて、かつてない金融緩和策を続けています。そのことで金融市場は空前のバブル状態にあります。行き先を求めるマネーがじゃぶじゃぶ状態で今溢れ返っています。1990年代には日本のバブル崩壊やアメリカと日本のITバブル崩壊、そして2008年に起こったリーマンショックが世界経済に大きな影響を及ぼしました。

私たちは、これ以上格差が広がらないよう知恵を絞っていくことが求められます。過去の歴史に学び、同じ過ちを繰り返さないようにしていかなければとても怖いことが起こるような気がします。



コト消費

近年、若者の消費傾向は“モノ消費”ではなく、心を揺さぶられる感動的な体験や、人とのコミュニケーションにお金を使う“コト消費”へ推移しているようです。その代表格がハロウィンで、日本記念日協会によると、2017年のハロウィン市場規模は1305億円に上りました。

“インスタ映え”という言葉が流行したように、コト消費にお金を費やす若者は、Instagram や Twitter などの SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) を通じ、自身の体験や感動を“人と共有したい”と考えています。

消費者庁が実施した『2016年度消費者意識基本調査』によると、“ライブや映画鑑賞、スポーツ観戦にお金をかけている”と回答した人は、30代以上の年齢層に比べ、15～24歳までの若者世代の割合が高い結果となりました。

また、“交際(飲食を含む)にお金をかけている”と答えた人は、20代で45.2%となり、全体の29%を大きく上回りました。

モノが溢れている時代に生まれ育った10～20代の若者世代は、興味・関心がないものは人とシェアをし、最小限度の購入に抑える傾向があります。

一方で、映画鑑賞やスポーツ観戦、旅行など、自分が好きなことや感動できる体験にはお金をかけているようです。時代は日に日に変化していきますね。



【座右の銘にしたい名言】



待っているだけの人達にも何かが起こるかもしれないが、それは努力した人達の残り物だけである。

(エイブラハム・リンカーン/米国の第16代大統領)